

緑丘中学校 1年生

S u Z u S o Z o I 期 S u Z u S o Z o II 期

「地域と世界を知ろう」 珠洲の内外から見た珠洲のよさ

1 学期は自分の育った地域について考えるために、小学校での学びの内容と学び方の交流を行い、SDGsとのつながりを意識しながら自分が探究したいテーマを考えました。2 学期は、里山里海に関わる学習と体験を行い、珠洲のよさを見直す活動を行いました。現在はSDGsの視点で珠洲をフィーチャーしたものづくりを、企業とのコラボで実現させるための学習を行っています。

2 年生は1 年生で、SDGsとはどんなものか、今珠洲はそれぞれの項目と深くかかわっているのかを学びました。2 年生では職業人講話や、職場体験等を通して、多くの人とつながることで、「人」という視点から、珠洲の魅力について考えてきました。そうすることで見えてきた、珠洲のよさとそれを支えるサステイナビリティについて報告します。

緑丘中学校 1年生

S u Z u S o Z o I 期

「地域と世界を知ろう」 珠洲の内外から見た珠洲のよさ

1 学期は自分の育った地域について考えるために、小学校での学びの内容と学び方の交流を行い、SDGsとのつながりを意識しながら自分が探究したいテーマを考えました。2 学期は、里山里海に関わる学習と体験を行い、珠洲のよさを見直す活動を行いました。現在はSDGsの視点で珠洲をフィーチャーしたものづくりを、企業とのコラボで実現させるための学習を行っています。

2 年生は1 年生で、SDGsとはどんなものか、今珠洲はそれぞれの項目と深くかかわっているのかを学びました。2 年生では職業人講話や、職場体験等を通して、多くの人とつながることで、「人」という視点から、珠洲の魅力について考えてきました。そうすることで見えてきた、珠洲のよさとそれを支えるサステイナビリティについて報告します。

●●●●●●●●●● 緑丘中学校3年生 ●●●●●●●●●● 三崎中学校3年生 ●●●●●●●●●●

S u Z u S o Z o Ⅲ期 農業から珠洲の未来を考える

「地域の未来を考えよう」

～持続可能なまちを目指して～

3年生は「持続可能なまちづくり」をテーマに自分たちが30歳になった15年後の鉢ヶ崎地区をどのような風景にしていくなかを考えました。アステナホールディングス、金沢工業大学、青年団、地域の方々と連携し、鉢ヶ崎の現地調査や、ランドスケープアーキテクトを用いて鉢ヶ崎の良さを生かしながら、今あるものにどう付加価値をつけるか、何を残し、何を創るかを考えました。

私たちは総合的な学習の時間に「持続可能な珠洲の未来」について考えました。中学生の自分たちにできることは何か考え、私たちにとって身近な農業にしばって調査しました。珠洲の農業について

①鳥獣害被害 ②耕作放棄地③スマート農業の観点から提言します。地域の方々へのアンケートや農業に携わるの方々へのインタビューなどから、新たに発見したことや考えたこと、そしてメッセージを伝えます。

●●●●●●●●●● 緑丘中学校3年生 ●●●●●●●●●● 三崎中学校3年生 ●●●●●●●●●●

S u Z u S o Z o Ⅲ期 農業から珠洲の未来を考える

～持続可能なまちを目指して～

3年生は「持続可能なまちづくり」をテーマに自分たちが30歳になった15年後の鉢ヶ崎地区をどのような風景にしていくなかを考えました。アステナホールディングス、金沢工業大学、青年団、地域の方々と連携し、鉢ヶ崎の現地調査や、ランドスケープアーキテクトを用いて鉢ヶ崎の良さを生かしながら、今あるものにどう付加価値をつけるか、何を残し、何を創るかを考えました。

私たちは総合的な学習の時間に「持続可能な珠洲の未来」について考えました。中学生の自分たちにできることは何か考え、私たちににとって身近な農業にしばって調査しました。珠洲の農業について

①鳥獣害被害 ②耕作放棄地③スマート農業の観点から提言します。地域の方々へのアンケートや農業に携わるの方々へのインタビューなどから、新たに発見したことや考えたこと、そしてメッセージを伝えます。

宝立小中学校7・8・9年生 大谷小中学校7・8年生

ふるさと珠洲科における
「住み続けられるまちづくりを」へ

「大谷の魅力を発信します」
～大谷に来て！見て！知って！～

「ふるさと珠洲科」として、目標11「住み続けられるまちづくりを」を中心に探究活動を行っています。7年は、「自然と人」のテーマのもと、里山・里海の保全についての具体的な取組について、珠洲の自然と関わる人々の取組や体験活動を通して学んでいます。8・9年生は、宝立町の空海伝説に関わる「見附島」「曾の坊の滝」「法住寺」を宝立三大スポットと位置づけ、電動マウンテンバイクで巡るツアーの作成に取り組んでいます。

幼い頃から祭りに親しみ、黒米や塩づくり体験などで大谷の自然・歴史・人に触れ、育ってきた自分たち。自分たちの子どもにも体験させてあげたい、でも将来の大谷はどうなっている？そんな思いでSDGs学習が始まりました。大谷の自然・歴史・文化を見直し「大谷の魅力を発信しよう」ということで7年生は観光スポットのパンフレット作り、8年生はCM作りに取り組んでいます。取材活動で感じたことや見てきたことを発表します。

宝立小中学校7・8・9年生 大谷小中学校7・8年生

ふるさと珠洲科における
「住み続けられるまちづくりを」へ

「大谷の魅力を発信します」
～大谷に来て！見て！知って！～

「ふるさと珠洲科」として、目標11「住み続けられるまちづくりを」を中心に探究活動を行っています。7年は、「自然と人」のテーマのもと、里山・里海の保全についての具体的な取組について、珠洲の自然と関わる人々の取組や体験活動を通して学んでいます。8・9年生は、宝立町の空海伝説に関わる「見附島」「曾の坊の滝」「法住寺」を宝立三大スポットと位置づけ、電動マウンテンバイクで巡るツアーの作成に取り組んでいます。

幼い頃から祭りに親しみ、黒米や塩づくり体験などで大谷の自然・歴史・人に触れ、育ってきた自分たち。自分たちの子どもにも体験させてあげたい、でも将来の大谷はどうなっている？そんな思いでSDGs学習が始まりました。大谷の自然・歴史・文化を見直し「大谷の魅力を発信しよう」ということで7年生は観光スポットのパンフレット作り、8年生はCM作りに取り組んでいます。取材活動で感じたことや見てきたことを発表します。

SDGs 学習取組報告会

2021 12/11 (SAT) YouTubeライブ配信

2021 **12/11** (SAT)  YouTubeライブ配信 

13:45 → 16:00 <https://noto-sdas.in/2021/672/>

2021 12/11 (SAT) YouTubeライブ配信 または

13:45→16:00 <https://noto-sdqs.jp/2021/672/> 



総合的な学習の時間を中心に学習しているSDGs学習の取組について探究的な学習を通しての発見や驚き、今後の学習の方向性などを報告します。
児童生徒が自らの考えを広げたり、深めたりする学習の機会とすると共に広く市民や保護者にSDGs学習の内容を発信する機会とする。

プログラム

13 : 45	開会挨拶 珠洲市教育長 吉木 充弘
13 : 50	小学校・義務教育学校前期 5 ・ 6 年生
	1. 上戸小学校
	2. 飯田小学校 5年生
	3. 飯田小学校 6年生
	4. 直小学校 5年生
	5. 直小学校 6年生
	6. 若山小学校
	7. 正院小学校
	8. 蛸島小学校
	9. みさき小学校
	1 0. 宝立小中学校
	1 1. 大谷小中学校
休 憩	
	中学校・義務教育学校後期
	1 2. 緑丘中学校 1年生
	1 3. 緑丘中学校 2年生
	1 4. 緑丘中学校 3年生
	1 5. 三崎中学校 3年生
	1 6. 宝立小中学校 7・8・9年生
	1 7. 大谷小中学校 7・8年生
15 : 50	講評 国連大学 サステナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティングユニット 事務局長 永井 三岐子 氏
16 : 00	閉会

主催 珠洲市教育委員会  能登SDGsラボ 

主催 珠洲市教育委員会  能登SDGsラボ 

主催 珠洲市教育委員会  能登SDGsラボ 



上戸小学校

高齢者が住みやすいまちをつくろう ～上戸のお年寄りを笑顔に～

「すべての人に健康と福祉を」の目標に基づき、高齢者が住みやすいまちとはどのようなものかをテーマに取組を進めています。日常生活を送ることが困難な高齢者の思いを知るために、自分達でも高齢者体験器具を使用してみたり、市役所や社会福祉協議会では高齢者のために現在、どのような取組をしているのか調べたりしています。それらを踏まえ、自分達で「笑顔」をキーワードに「住みやすいまちづくり」を考え、発信していきたいと考えています。

飯田小学校5年生

珠洲のきれいな海を守ろう

「どうして地球が泣いているんだろう？」環境問題について調べていくと、人間が出したごみによって、海が汚され、海の生物たちが苦しんでいることを知りました。珠洲の海もたくさんのごみが漂着しています。珠洲のきれいな海を守るために、ごみ拾い活動をしている方の話を聞き、自分たちにもできることはないか考えました。海のごみの実態、ごみを減らすために自分たちにできることについて発表します。

飯田小学校6年生

住み続けられる珠洲市であるために

自分達が暮らす珠洲市は、近年人口が減り続けており、このままだと住み続けることができないかもしれません。珠洲市の抱える問題、住み続けられる珠洲市にするために自分達には何ができるのかを、「里山」「里海」「施設」「子育て」「魅力」「仕事」の6つのテーマに分かれて調べました。珠洲市に昔から住んでいる方と移住された方の話を聞きました。現段階で調べて分かったこと、考えた自分達にもできることを発表します。

直小学校5年生

SDGs14海の豊かさを守ろう

直小学校5年教室の窓からはきらきらと輝いている海が見え、珠洲市が豊かな海に囲まれていることを実感させてくれます。きれいな海。おいしい魚。それは珠洲市に生まれ育った私たちにとって、当たり前のことのように思えてしまいます。珠洲市の海を学習とつなげていろいろな視点で考えることで、その素晴らしさと大切さを再確認しました。そこから豊かな海を守るために自分たちができることを探っていきます。

直小学校6年生

SDGs11 住み続けられるまちづくりを

「珠洲は、今後住み続けられるのか…。」4月当初、珠洲の良い点と課題点について話し合いました。私たちの中では圧倒的に良い点が多く、今後も住み続けたいという人がほとんどでした。しかし、珠洲に住んでいるのは、私たちだけではありません。そこで、子育て世代、高齢者世代、若者世代に、インタビューを行うことにしました。私たちが大人になっても住み続けられるまちにするために何ができるのか、みんなで考えています。

若山小学校

若山に眠る「お宝」を探せ！ ～われら、若山っ子トレジャーハンター～

今年度から完全複式学級になった若山小学校。このままでは私たちの母校が、若山町が消滅してしまうかもしれない！しかし、若山の歴史を学ぶと、昔から豊かな土地に恵まれ、かつては能登一とも言われるほど繁栄していたことを知りました。ないものねだりをするのではなく、今ある「わが町、若山のお宝」を見つけるため、農作業や伝統行事を体験したり、地域の方たち取材したりして、「将来も住みたいまち」について探究してきました。

正院小学校

SDGs実現を目指して！ ～自分たちにできること&伝えていきたい珠洲のよさ～

今年度、さまざまな場所に出かけ、『見る』・『聴く』・『体験する』という様々な活動を行っています。本物に触れる機会を通して、SDGsの目標実現に繋がる取組が自分たちの身近にたくさんあると思いました。そして、自分たちにできそうなことを子ども宣言としてまとめ、それを伝えていくことが自分たちの役割だと考えました。今年10周年を迎えた世界農業遺産『里山里海』とも関わらせ、自分たちが学んだことをお伝えします。

蛸島小学校

私たちの 豊かな海を守るためにできること

蛸島小学校は身近に海があり海を守るために何ができるのかを考えてきました。海上体験や塩作り体験で海の豊かさを感じる一方、海に浮いているゴミや減っていく漁獲量に目を向け、漁師さんや企業の方々から海を守るための取組や工夫を学びました。私たちにできるエコバックを使う、ごみを分別する、環境に優しい商品を選ぶことの大切さを交流している台湾の小学生にも伝え、一緒に取り組もうとしています。

みさき小学校

住みやすい三崎町への第一歩 ～私たちにできること～

私たちの三崎町には、トキやアサギマダラ、イルカなどの多くの生き物や自然がたくさんあります。そんな三崎町を人はもちろん、動物や植物にも優しい町にするにはどうすればよいか考え、様々な方から話を聞いたり、体験したりしてきました。これからの三崎町を守っていく、そしてよりよくするために「私たちにできること」を紹介します。

宝立小中学校

ふるさと珠洲科における 「住みつづけられるまちづくりを」

ふるさと珠洲科の学習の中でゴール11「住みつづけられるまちづくりを」を中心に学習を進めています。5年生は「産業から珠洲を考える」6年生は「珠洲の歴史から未来を考える」のテーマのもと、珠洲の里山・里海の保全について、ゴール14や15の内容とも関連づけながら、課題を見つけ、考えてきました。5年生と6年生の活動は違いますが、それぞれの活動から学んだことや、自分たちに何ができるか話し合いを進めてきた内容を発表します。

大谷小中学校

珠洲のみりよくを生かしたまちづくり ～珠洲のみりよく再発見～

自分たちが住んでいる珠洲・大谷は、自然が豊かで人も温かい。のんびり、楽しく過ごせる珠洲。それなのに、どうして珠洲市の人口は減り続けるのか。そんな疑問から始まった私たちのSDGs学習は、他の市や県から移住してきた人たちの話を聞き、「外から見た」珠洲市の「みりよく」を発見できたことが大きな成果となりました。その「みりよく」をこれからどのように発信していけばよいか、情報を整理し、発表します。